

明星大学防犯ボランティア隊 MCAT（エムキャット）（東京都）

活動地域と大学の紹介

はじめに、私たちの大学があり、活動地域である東京都日野市の紹介をいたします。日野市は東京都の中心部に位置し、多摩地域の南部にあります。人口は約 17 万 8,000 人を抱え、水と緑の自然豊かな、とても環境のよいところです。主な名所は関東三大不動の一つである高幡不動尊金剛寺があります。その他の名所としては、都立多摩動物公園、京王百草園の梅林などです。また、新撰組副長、土方歳三の生家があることでも知られております。



私たちが在籍する明星大学は多摩動物公園のすぐ近くにあり、広大な敷地と自然に囲まれた学習環境の大変よい場所にあります。歴史は昭和 39 年、東京オリンピックの年に理工学部からスタートし、現在は教育学部、経済学部、経営学部、人文学部、情報学部、造形芸術学部の7学部、学生数約 8,000 名の総合大学です。明星大学の教育方針に「実践躬行」の体験教育が掲げられております。私たちMCAT 隊員はまさに体験を通してさまざまなことを学んでいると言えるでしょう。



団体の概要

MCAT は Meisei Community Action Team の略で、明星大学の学生有志で構成された、地域のために活動する団体です。平成 22 年5月、本学ボランティアセンターから、警察庁と文部科学省から若い世代



の自主防犯活動への参加協力の要請が来ているので、ぜひ地元の警察署と協力して地域の安全のためにボランティア活動をしてみないかというお話を聞き、それに賛同した学生が声をかけ合い、立ち上がりました。そして、その年の6月に日野警察署の方を招いて学生 22 名で結成式を行い、活動を開始しました。現在、1年生から4年生まで合わせて総勢 50 名にまで拡大しております。構成員の内訳は、1年生が 11 名、2年生が 20 名、3年生が 10 名、4年生が9名です。

活動内容



まず、MCAT は地元日野警察署と日野防犯協会と連携した活動を行っています。そのため、MCAT は活動に際し、日野警察署生活安全課の防犯講座を必ず受講してから活動に臨んでいます。ですから防犯協会の方々ともとてもよい関係が築かれており、皆さん、会うと親しくお声をかけてくださいます。主な活動は、年金支給日に駅前の銀行近くで、振り込め詐欺に遭わないよう注意を呼びかける活動や、警察官と一緒に一人暮らしのご老人宅を訪問し、声かけをしております。振り込め詐欺に遭われている方の多くは高齢者で、言葉巧みに孫になりすました犯人から、蓄えていた預金をだまし取られるという事案が多いと聞きました。私は、この活動をする前は、被害に遭われた方はなぜ確認もしないで振り込んでしまうのか不思議でしたが、活動を通し様々なことを勉強させていただき、お年寄りが振り込んでしまう理由が次第に理解できるようになりました。詐欺集団はかわいい孫になりすまし、心理的に被害者をパニックにして振り込ませるといふ、巧妙な手口で狙ってきます。このような卑劣な犯行は断じて許してはなりません。私たち MCAT は、振り込め詐欺撲滅活動に参加するときには、一人でも被害者を出さないという強い気持ちを持って活動するようになりました。



また、ひたたくり被害や万引き被害を防止するために、駅前で日野警察署が作成したチラシやティッシュを通行人に配り、理解を得ています。ときには警察官と一緒にスーパーやコンビニエンスストアなどを訪問して、ポスターを配布したりします。そのほか、防犯協会の方が運転する青パトに同乗して、スピーカーから防犯を呼びかけるメッセージを流しながら地域を巡回しております。

なお、MCAT は、日野警察署生活安全課が立ち上げた万引き防止キャンペーン連絡協議会にも加盟させていただいておりまして、隊員一人一人が常に高い意識を持っております。また、平成 22 年 11 月に警視庁副総監から振り込め詐欺被害防止アドバイザーを委嘱されました。この委嘱状を手にしたときには、これまでになく大きな喜びがありました。MCAT 隊員として一層の誇りを胸に活動に励んでおります。

私たち MCAT が最大の特徴としていることは、日野警察署のご指導と大学ボランティアセンターの支援のおかげで地域に密着しており、その活動が多岐にわたっていることです。日々自主的に活動していることとして、大学近隣の住宅街の見回りと清掃活動があります。近隣住宅は高齢化が進み、老人会等のパトロールには限界があることから、私たち MCAT の出番となったのです。挨拶を交わす地域やきれいなど

ころには犯罪が起こりにくいという観点から、すれ違う方々には積極的に声をかけ、清掃活動も併せて行っております。この活動をしていて一番うれしいことは、住民の方々が「ご苦労様。いつもありがとうね」という感謝の言葉をかけてくれることです。このことは私たちにとって本当に励みになります。

また、大学近隣には小学校もありますので、週1回、児童が下校する時間に合わせて声かけ運動を実施しております。「さようなら。気をつけて帰ってね」というような言葉をかけ、地域の子どもたちとコミュニケーションを図るとともに、常に目を光らせております。

このような活動のあとには必ずミーティングでの反省をして、今後の活動に生かせるよう精進しております。

なお、活動するときには警察庁から貸与されましたオレンジ色のチョッキを活用し、腕章を付けて巡回しているため、私たち隊員も身が引き締まります。

そのほか、学内的なことですが、MCAT が授業の空き時間にこのユニフォームを付けて学内を歩いている姿を見て、MCAT の活動をぜひ体験してみたいという学生が出てくるようになりました。このことが縁で、昨年5月から野球部数名が参加協力してくれるようになり、仲間が増えました。

活動頻度は、授業の空き時間を利用して、火曜日、水曜日、木曜日の週3回、いずれも1時間程度、住宅街の見回りと小学校児童の下校サポート、そして月3回程度、日野警察署および防犯協会との合同防犯活動に参加しております。私たち MCAT のこうした地道な活動が地域の安全に貢献するとともに、信頼関係もますます強いものになっており、この良好な関係が隊員たちの誇りと自信、活動する意欲につながっています。

今後について

私自身も MCAT の一員として、活動を通し多くのことを学びました。中でも警察官から犯罪者の心理や事件の被害者にならないための注意点などを教えていただいたことは、活動だけではなく日頃の生活にも生かせるもので大変勉強になりました。また、防犯協会の方からは、この地域の歴史などを熱心に教えていただくことも少なくありません。いま住んでいる地域を様々な視点から見つめ、世代を越え、笑顔で話を交わすこと。これこそがいま必要とされている絆なのではないでしょうか。そう考えるとともに、私自身、これほどまでによい体験をさせていただいていると、改めて気付かされました。



最後に、私たち MCAT は今後の目標の一つとして、子どもとお年寄りが安全・安心に暮らしていけるような明るいコミュニティづくりの場に積極的に出てまいります。そして、これからも私たち MCAT はこの活動を継続させるためにも後輩を育て、日野警察署と連携して地域の安全活動を推進していく決意です。

質疑応答

- 質問 そもそもこの防犯ボランティア活動に参加したいと思ったきっかけというのはどんなことですか。
- 回答 私自身が福島県出身です。東日本大震災では見知らぬ人に助けられた経験があります。今度は逆の立場で人を守ってみようということを考えていたときに、大学のボランティアセンターでこの紹介があり、「ここだ」と思って入隊を決めました。